

# 入居者インタビュー

## 『私の明るさは 負けなかつたから...』

小峰 妃佐 様(78歳)



今回は、いつも明るい笑顔の小峰様にお話をお伺いいたしました。

### 〈病気と辛い出来事を 乗り越えて〉

独身時代は、スキー・バレエ・ボール・ダンスと、体を動かす事が大好きで活動的でした。しかし、24歳にスキー場で大事故にあつてから、色々な病気との闘いが始まった気がします。

卵巣腫瘍、胆石、突発性難聴、メニエール病、腰部脊柱管狭窄症、湾曲症、憩室炎、バセドウ病、尾骨脊柱管狭窄症、黄斑前膜症、上行結腸憩室炎下血、変形性膝関節症、手術も沢山しました。

腰部脊柱管狭窄症の治療は、医師から手術をしたら治ると勧められてやりましたが、人工骨が神経に触れて、最近では寝て

いると痛くて辛い毎日です。それと膝関節症は、昨年右足を手術をし、今回左足を。今もリハビリを頑張っています。

病気も辛かったけれど、もっと辛かったのは、結婚して7年目にやっと授かった子供を早産、21日目に亡くしてしまった事です。悲しくて悲しくて、近所の人と会うのも辛くて、しばらくは家から出る事が出来なかつたです。主人からは「子供を返せ！」って責められてね。ワンマンな主人は外面ばかり良くして他人には言えない苦勞が沢山ありました。病気の辛さや、主人からの精神的苦痛にも耐え、泣きながら死にたいと思う事もあつたけれど、両親に悲しい思いをさせたくないと思ひ、「自分に負けない、きつと良いことがあるから」と、言い聞かせて前

に進んできました。

### 〈本の電話で手に入れた 自由と安心〉

主人が亡くなり、一人で自宅を維持するのが大変になり、近所のマンションだったら安心だと思ひ、手付け金の100万円を払って契約をする直前の時でした。新聞広告で湯河原へ「ゆうの里」の事を知りました。

湯河原だったら温かい、温泉、空気がきれい、その上終身介護付きと書いてある。興味があつた話だけ聞いてみようと思ひ電話をかけました。自分の体の状態を聞かれ、これからマンションが完成したら引越す旨話したところ、「3000万円でマンションを買うなら、湯河原へ「ゆうの里」で終身安心で自由な生活を手に入れる事ができます。マンションには介護も医療も付いて無いですし、いざという時はどうしますか？ご親族やご友人への迷惑を考えたら・・・」などと、自立型終身介護付きの施設である事を熱心に語るのを聞いて、ハツとして目

からうろこでした。すぐに体験入居をして「自分を守っていくにはここだ。」と決心し、マンション購入をキャンセルしました。あの日の1本の電話で手に入れた自由と安心が今ここにあります。

### 〈楽しい事に集中できる幸せ〉

友人とドライブをしながら写真スポットを探すのが好きなの。真スポットを撮って、後から楽しんでいけるよ。特に富士山の写真を撮ると好評で、季節や場所を探す楽しさが益々湧いてきます。里には、写真サークルがあるので、テクニクが上達すると嬉しいわ。写真を撮りに行くのも仕事をするのも好きな時に好きなだけできるし、幸せを手に入れられたのよね。



入院中でもカメラは離せません(笑)。病院からの景色を楽しんでいる小峰様。次回の作品を楽しみにしています。